

書き損じハガキ回収に力

福知山ユネスコ協会

総会で事業計画承認

書き損じハガキの回収を通じて、途上国の子どもたちの教育支援などを行う福知山ユネスコ協会（松山義信会長）は9日、福知山市末広町のたかた荘で総会を開いた。同様の回収活動などを盛り込んだ今年度の事業計画を承認した。

同協会はユネスコ憲章に従い、教育、科学、文化を通して国際理解・協力を深め、世界平和に貢献することを目的に、活動を繰り広げている。

総会には会員約20人

が出席。昨年度事業報告があり、書き損じハガキの回収キャンペーンでは、学校や施設などから2629枚が寄せられ、18万5942円分の切手をユネスコ本部に送ったことを紹介した。

今年度事業計画では、今年も6月から来年3月まで回収キャンペーンを実施。各学校や施設などに回収箱を置き、協力を求めている。また11月15日に大阪市内で、持続可能な地域づくりをめざして開かれる近畿ブロック

・ユネスコ活動研究会に会員たちが参加。会
員数増強活動にも取り
組む。
総会後は研修会があり、福知山公立大学の



総会後は研修会で、福知山公立大学の山本教授が講演した

山本吉伸教授が講師となり、生成AIを活用して同協会をPRするポスター製作の方法を会員たちに伝授した。山本教授は会員たちから聞いた協会の特徴や取り組みなどを、AIに文章で具体的に伝えていった。

短時間でポスターの原画が出来上がると、会員たちは「すごい」と驚き、山本教授は「実際にポスターを作る際は、原画をそのまま使うのではなく、あくまでも参考にして、最後は自分たちで仕上げていくことが大切」と話した。